

平成 23 年度第 3 回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要	
開催日時	平成 23 年 7 月 25 日 16 時～16 時 33 分
開催場所	小山田記念温泉病院第 3 会議室
出席委員	毛受、鈴木、北村、山中、田中、牧野、家崎、浅野、大西 (敬略称、順不同)
新規研究計画の審議	
申請者	和田 美奈子
研究名	回復期リハビリテーション病棟での脳血管疾患を呈した日常生活機能評価 10 点以上の重症患者への訓練量をもとに体幹機能との関係性について
研究内容 要旨	入院、退院時の訓練量と体幹機能を評価し、どのような関連性があるのか比較、検討し訓練量増加における有用性を明確にする。
審議結果	差し戻し
意見	誰が評価判定をするのか明確にする。 研究名と研究方法について詳しくわかりやすい言葉で説明する。 重症患者をなぜ対象としたのか。 訓練量と体幹機能の関連になぜ着目したのか。 調査項目（JCS、TCT、FIM、BRS）の具体的な内容、要する時間などについての説明。 FAX 番号を訂正する。
新規研究計画の審議	
申請者	加藤 祐子
研究名	MPX-21eco の臨床評価
研究内容 要旨	今回ニプロ社より、血液透析濾過用人工腎臓（ヘモダイアフィルタ MF X - e c o）が開発され、この人工腎臓が血液濾過透析で期待される溶質除去性能が発揮されること、また臨床で安定した透析ができることを確認する目的で、臨床評価を行う。
審議結果	承認
意見	特になし
参考	本研究計画は、日本医療情報センターの臨床試験情報データベースへ登録されている。
新規研究計画の審議	
申請者	田中 紀行
研究名	神経筋電気刺激療法と関節可動域訓練の併用が脳血管疾患患者の足関節機能に及ぼす影響
研究内容	2009 年脳卒中ガイドラインは、痙縮に対して電気治療の施行及び

要旨	<p>ストレッチ・関節可動域訓練がそれぞれ推奨するリハビリテーションとなっている。痙縮に対し電気刺激やストレッチ・関節可動域訓練それぞれの介入による効果は多く報告されているが、神経電気刺激療法と関節可動域訓練を併用した効果を述べ、足関節機能変化を定量的に評価しているものは非常に少ない。本研究は、神経筋電気刺激法と足関節機能訓練の併用効果が足関節機能に影響するかを調査する。</p>
審議結果	<p>条件付き承認</p>
意見	<p>研究方法の記載をわかりやすくする。 一人の被験者に対して、電気刺激法を併用した可動域運動を 1 回、電気刺激法を併用しない可動域運動を 1 回、計 2 回の調査を行うものであることを明記する。 補償、保険などの措置に関する記載を改める。 「試料等の採取に・・・実施される介入になります」が意味不明。 「被験者・・・適切な言葉を用いる」は不要。</p>